

■ISO/PC253「処理排水の灌漑利用」の第2回会議に日本代表団として出席

国際標準化機構（ISO）は、国家間の製品やサービスの交換を助けるために、標準化活動の発展を促進すること、知的、科学的、技術的、そして経済的活動における国家間協力を発展させることを目的に組織された機関です。ISO の中には 212 の専門委員会（TC）、510 の分科委員会（SC）、2570 の作業グループ（WG）とアドホックグループが設置されており、今回参加した PC253 は専門委員会の一つです。（参照：<http://www.jisc.go.jp/international/iso-guide.html>）

PC253 は「処理排水の灌漑利用」を目的としています。イスラエルを議長国として、18 カ国の積極的な参加国（P メンバー）と 16 カ国のオブザーバー国（O メンバー）から構成されています。我が国は前回の第 1 回会議までは O メンバーとしての参加でしたが、今回の第 2 回会議から P メンバーとして参加しています。

本委員会のターゲットは都市排水の灌漑への再利用に限られていますが、ヨーロッパにある欧州標準化委員会（Comité Européen de Normalisation、CEN）での「生活雑排水と雨水の再利用」に関する基準化の作業や、北東アジア標準協力フォーラムの中での「再生水の都市利用」に対する日中韓 3 カ国会議など、世界の各地で再生水への関心が非常に高くなってきています。

PC253 は再生水の灌漑利用にあたって、処理方法とその水質、農地土壌の性質、作物の種類、気候条件などから総合的に判断し、再生水を安全に灌漑利用するために、再生水の灌漑利用のプロジェクトにおける各種施設の設置や管理に関する規格です。今回の会議ではこのような視点から目次案が作成されました。また、灌漑方法に対して規格の適用範囲を限定するか否か議論がなされましたが、畝間灌漑などの地表灌漑の専門家が参加しておらず、スプリンクラーなどの加圧式の灌漑の専門家しか参加していなかったため、結論は次回以降の会議へと持ち越しとなりました。第 3 回の会議は 2011 年 10 月下旬に開催される予定です。



会議には、各国の規格協会の職員や企業の技術者や研究員が参加していました。議長から基準の目次と素案が示され、それをもとに議論がなされました。ここでの議論をもとに ISO 基準が策定されていきます。次回は、より具体的に活発な議論が展開されていくことと思います。



P メンバーの国は、オーストリア、ブラジル、カナダ、中国、イスラエル、コロンビア、キプロス、フィンランド、フランス、インド、日本、メキシコ、オランダ、ポルトガル、南アフリカ、スペイン、ウクライナ、イギリスの 18 カ国です。

今回の会議には、オーストリア、カナダ、中国、イスラエル、フランス、日本、ポルトガル、スペイン、イギリス、韓国の 10 カ国から 18 人の参加がありました。（前から 2 列目の左端が濱田）